



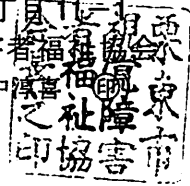
要望書第 6 号 持参

令和 5 年 11 月 24 日

栗東市議会議員 上田忠博 様

要望者

住所 栗東市小平井2丁目1-1
氏名 栗東市視覚障害者福祉協会
(代表者名 山中淳喜)



栗東市の障がい福祉行政（視覚障がい）に関する要望書

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当栗東市視覚障害者福祉協会の活動に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げますとともに、障害者福祉施策向上のために鋭意に取り組んで頂いておりますこと深く感謝いたします。

しかしながら、視覚障害者が地域で生活していくにはまだまだ多くの障壁があり、安全、安心な生活環境を整備していただくことは切なる願いです。

そこで、令和6年度予算編成にあたり、下記の項目を要望いたします。何卒ご理解賜りご配慮賜りますようお願い申し上げます。

記

以

要望の要旨

- 視覚障がい者ガイドヘルパーが圧倒的に少ないため、同行援護従事者養成研修の開催や受講の為の支援充実を含め増員を図って頂きたい。また、ガイドヘルパーが自動車を利用して同行援護できるように配慮願いたい。
- 移動のための福祉タクシーの運行や公共交通の充実を図ってほしい。くりちゃんバスの土・日曜日運行実施、済生会病院を経由するバスの増便（現在2時間ないし3時間に1本の運行で病院にバスでいけない）
- 災害時における視覚障がい者への支援（自助、共助できる下地としての公助の充実）
- 踏切への点字ブロック敷設（手原駅横草津寄りの踏切、手原一石部駅駅間

- の踏切一ヶ所に点字ブロックを実験的に敷設してほしい。また国道の横断歩道、坂道の点字ブロック敷設(京都駅では横断歩道に点字ブロックあり)
5. 幹線道路や町内の大きめの道路での歩道の完全街灯設置の義務化(まだ未実施の箇所多し)。しっかり対応頂きたい
 6. 広報りっとうを全ページ通して読み上げるようにしてほしい。(全盲の人は各ページごとにクリックできない)
 7. 公共トイレの完全洋式化と身障者用トイレの完全設置
 8. 民間に任せるのではなく重度又は高齢の方の障がい者のグループホーム、ショートステイの施設づくりに積極的に市が関わってほしい。

要望の理由

1. 視覚障がい者のガイドヘルパーが圧倒的に少ない。これは社協の問題であるかもしれないが、それならそれで積極的に市行政が関わり、増員を促してほしい。また自動車を使つての同行援護は必須である。他市では自動車を使つて Door To Door の同行を行つてる。是非改善してほしい。
2. くりちゃんバスは車の運転できない視覚障がい者の必須ツールである。土日はがないのは外出するなという事か。運行時間を減らしてでも土日は絶対運行してほしい。また済生会病院行きの運行を増やしてほしい。おそらくタクシーを使いなさいということと思われるが、タクシーでは手原一病院でも料金が 1000 円を超える。現状ではバスを使わないと生活できない。
3. 災害時の援助は自助、共助が基本であることは認識するが、自助・共助できる下地を公助が作つて実行できると思う。
4. 踏切内の点字ブロック設置、横断歩道や地下道の坂道(自転車用であるが階段を極力使いたくないので)の点字ブロックは必須である。何故、横断歩道や坂道の手間で点字ブロックが無くなるのか、一番必要なところではないか。
5. 幹線道路や町内の大きい目の道路の歩道の街灯は必須である。我々視覚障がい者はヘッドライトの白い光に幻惑される。必ず歩道は明るくしてほしい。
6. 広報の連続の読み上げは必須です。見えない人はページごとにクリック出来ない。
7. 公共トイレは今の時代、洋式化は当たり前である。栗東駅前のトイレはまだ和式です。
8. 老々介護、おひとりの方にショートステイやグループホームが必要です。当たり

前のことだと思う。

以上